



Rotary International District 2510

小樽カントリー倶楽部 (第 4G)

GOVERNOR'S

Monthly Letter

2022-2023 ガバナー月信

4

2023 Apr

No.10



国際ロータリー第 2510 地区

2022-2023 年度 ガバナー 石丸 修太郎

〒060-0042 北海道札幌市中央区大通西 11 丁目 4 大通藤井ビル 7F

TEL (011) 207-2510 FAX (011) 207-2512

E-mail: rid2510@pxva.ne.jp <http://rid2510.org>

2022-2023年度 国際ロータリーのテーマ 「イマジン ロータリー」



国際ロータリー第2510地区 2022-2023年度テーマ

「ロータリーに想いを馳せる」 ～明日のロータリーに夢を込めて～



【地区目標】

- ① クラブの将来像を打ち立てる
- ② より多くの会員の参加を得てクラブにおいて新たな事業に取り組む
- ③ 青少年への支援を発展・充実させる
- ④ ICTも利用して交流の輪を広げる

CONTENTS

●ガバナーメッセージ-----	1	●国際大会案内-----	29
●トルコ大地震災害支援義捐金の御礼-----	3	●「第2510地区北海道ナイト」のご案内-----	31
●地区チーム研修セミナー報告-----	4	●RYLAセミナーのご案内-----	33
●これからのローターアクト-----	6	●ガバナー四方山話®-----	35
●「第4・第5グループ合同 IM」開催報告-----	7	●ガバナー補佐ロータリーを語る-----	36
●美唄RC創立50周年記念式典・祝賀会を終えて-----	9	●月信委員会からのお知らせ-----	37
●米山奨学生お礼の言葉／カウンセラーの感想-----	12	●表紙の解説（第4グループ）-----	38
●財団奨学生・米山奨学生紹介-----	23		



ガバナーメッセージ

国際ロータリー第2510地区

2022-2023年度ガバナー 石丸 修太郎
(札幌西RC)

季節商売とは言え、確定申告の仕事が終わってやれやれと思っていたら、3月決算で現金の実査とか棚卸の立会とか監査の仕事がボロボロと出て来て、因果な商売を続けているものだと改めて感じている今日この頃です。

本州では既に桜は散ってしまったようですが、北海道は4月の後半からがシーズンですね。それぞれのクラブでも観桜会など楽しい移動例会を開催しているところも多いのではないのでしょうか。綺麗に咲いている花も散りゆく定めで季節が移ろっていく様は風情ということなのでしょうね。

4月はロータリーの母子の健康月間となっていますが、今の日本の状況を考えると、単に母子の健康というより、まず子供を作り育てる社会環境改善が喫緊の課題だと思います。昨年の子供が80万人を割ったというニュースがありましたが、このままの状態が続くことは日本が消滅に向かっているということなのでしょう。

女性が社会で活躍することと、家庭を持たないこととの関係を断ち切るために何をすべきなのでしょう。働き甲斐のある仕事と豊かな家庭生活は両立されなければならないことだと考えますが、何が障壁となっているのでしょうか。日本のロータリーに女性会員が少ないことと何か関係しているような気がしています。

さて、2月に第8グループのIMがあった後、第3グループのIMが栗山で、そして3月に入って第4・第5グループ合同のIMが札幌で開催されました。それぞれガバナー補佐の皆さんが工夫された趣向で催されとても感心して参加して来ました。しかしまだコロナの影響もあり、懇親会が無かったり人数制限をしたりと今ならではの工夫をしたIMでした。

3月21日は地区の米山奨学生の卒業式と言うか年度の修了式が執り行われました。



11名の奨学生の皆さんが参加され、それぞれの想いを語ってくれました。出身国は違っても、米山の制度に感謝し、お世話になったカウンセラーやクラブに対するお礼の言葉がとても嬉しいものでした。

その後、25日と26日には小樽にてPETSが開催され、松浦年度の本格的な動きが始まりましたが、ホストクラブである小樽南RCの皆様の温かいホスピタリティーにより、各クラブから来られた会長エレクトの皆様は有効な情報を得るとともに、親睦を深めることが出来たのではないかと推察します。それにしても土曜日の午前10時半から日曜日の午後0時半までのトレーニングセミナーは中身が濃いものでした。



受講する会長エレクトの皆様は真剣そのものでした。それでも土曜日の夜は4年ぶりのリアル懇親会が開催され、大いに盛り上がりました。



最後は久しぶりの「手に手つないで」で締めでした。多少アルコールが残った方も居たでしょうが、日曜日の財団セミナーと米山セミナーではそれぞれ奨学生が登場して想いを語って頂き、大変感動的でした。各クラブの活動計画が実のあるものとなることを期待しております。



トルコ大地震災害支援義捐金の御礼

国際ロータリー第2510地区

2022-2023年度ガバナー

石丸 修太郎

(札幌西RC)

3月初旬に地区内の皆様にお願ひしました、2月に発生したトルコとシリアに渡る地域での大地震に対する支援義捐金について、3月28日時点で59のクラブから総額2,415,246円が寄せられました。誠に有難うございます。このお金は日本の34地区で作っているガバナー会事務局を經由してトルコに送金します。

このような短時間においてこれだけの義捐金が寄せられましたことについて、各クラブの会長・幹事さんに深い感謝をするとともに、義捐金の拠出に協力して頂きましたすべてのロータリアンの皆様に深甚なる敬意を表したいと思ひます。

また、地区としまして財団の地区補助金から1万ドルをロータリー財団の災害救援基金へ寄贈し、トルコ大地震の支援に充てる手配をしましたことご報告させていただきます。

なお義捐金をお寄せいただきましたクラブは下記の通りです。

深川RC、羽幌RC、留萌RC、芦別RC、砂川RC、滝川RC、美唄RC、江別RC、江別西RC、岩見沢RC、岩見沢東RC、栗沢RC、当別RC、札幌RC、札幌はまなすRC、札幌北RC、札幌モーニングRC、札幌西RC、札幌西北RC、札幌手稲RC、札幌東RC、札幌清田RC、札幌幌南RC、札幌真駒内RC、札幌南RC、札幌大通公園RC、新札幌RC、岩内RC、倶知安RC、小樽RC、小樽南RC、小樽銭函RC、蘭越RC、余市RC、千歳RC、千歳セントラルRC、恵庭RC、北広島RC、長沼RC、様似RC、静内RC、浦河RC、伊達RC、室蘭RC、室蘭東RC、室蘭北RC、洞爺湖RC、函館RC、函館亀田RC、七飯RC、函館セントラルRC、江差RC、函館五稜郭RC、函館東RC、函館北RC、白老RC、苫小牧RC、苫小牧東RC、苫小牧北RC



地区チーム研修セミナー

国際ロータリー第2510地区

次期地区代表幹事

齋藤 仁

(小樽南RC)

2023年(令和5年)2月18日(土)午後1時から、札幌市中央区のロイトン札幌において「地区チーム研修セミナー」がリアル開催で行われた。次年度ガバナー補佐、地区委員長が松浦ガバナーエレクトの元、ワンチームになるべく初めての顔合わせの機会が訪れたのだ。

前日、ニセコで日本初開催のRISキーフェローシップフェアウェルパーティーが、倶知安で行われそれに出席した石丸ガバナーの挨拶からセミナーは開会された。

役員紹介役の石川次期地区副代表幹事が、前日に判明した家族の流行病感染により急遽欠席せざるを得ない状況になった。しかし、そんな中、桂次期地区幹事が会場での急振りながら代役を果たして頂き、出席者の皆さまにご迷惑かけることなくプログラムは進行していった。

アメリカフロリダ州オーランドで行われた国際協議会での研修を終えた松浦ガバナーエレクトが、RIテーマ「世界に希望を生み出そう」と発表したゴードンR・マッキナリーRI会長エレクトとの幾度にも及ぶ研修。世界中から集まった600名以上のガバナーエレクトとの分科会と交流。すでに日本国内で何度も顔合わせをしている日本から集結した34名の同期ガバナーエレクトとの絆。

それらの仲間とこれからのロータリー活動の方向性を考え、地区テーマを「地域社会に希望を育むロータリー」と発表した。地区目標を個別に説明し、重点項目の1番に女性会員10%達成を掲げた。現在世界中での女性会員比率が33%、それを35%に上げたいとRIでは動いている。しかし、今年の国際協議会では、それよりも多い半数くらいのがバナーエレクトが女性だったと肌感覚で感じた松浦ガバナーエレクト。本地区が率先して10%を目指すという意思表示をされた。

嵯峨義輝次期地区研修リーダー(PG)による「戦略計画の必要性」と題しての講演。福井敬悟次期地区研修委員(PG)による「地区委員会委員長の役割と責務」と題しての講演。最後の講演は、小山司次期地区研修委員(PG)による「会員基盤の強化」と題して第2510地区の現状をデータで示された。その後、私から地区組織図、ガバナー公式訪問案、ガバナーエレクト事務所スタッフの役割分担の説明をさせていただき、次年度予算案を廣部次期地区財務委員長が発表した。

続いて、11名(1名欠席)のガバナー補佐から自己紹介と抱負をのべていただき、休憩を挟んで、次期地区委員長25名から自己紹介と抱負を述べていただいた。多くの次期ガバナー補佐、地区委員長の協力のもと、ほぼ時間通りにプログラムは終了した。

その後、会議場から移動しての懇親会。お互い飲み物の力を借りて大いにコミュニケーションを図り、忌憚ない雑談による交流会が行われた。

研修と懇親会の閉会のあいさつは恒例となっているガバナーノミニーの仕事だ。出村ガバナーノミニーによるT・E・A・M(チーム)の語源説明には、全員頷いて満面の笑顔で応えていた。

GOVERNER'S Monthly Letter's





これからのローターアクト

国際ロータリー第2510地区

ローターアクト委員会 委員長

高橋 耕

(札幌幌南RC)

日頃よりローターアクト委員会の活動にご理解ご協力をたまわり、誠にありがとうございます。3月13日より19日がローターアクト週間です。ローターアクトにちなんだお話ということで、今までとこれからのローターアクトをお伝えしたいと思います。

ローターアクトの始まりは、1960年代にさかのぼりインターアクト（高校生のためのプログラム）を終えた若い人達が活躍できる場が必要と考え、青少年プログラムの一環として18歳から30歳の若者に対してローターアクトクラブ（RAC）が提案されました。1968年にノースカロライナ大学にシャーロットRACが設立されました。それから55年が経ち、今では世界にRACが11138クラブあり、約17万人の会員が活動しています。日本においては、298クラブ、2564人が活動しています。（2022年7月時点の参考値）

長年ロータリーの青少年プログラムとして活動していたローターアクトですが、2022年度よりローターアクトの立場を大きく変える制度の変更がありました。変更点はいくつかありますが、特筆すべきと私が思うところは2点あります。

1点目はローターアクトがRIに加盟することになった点です。それにともなって、ローターアクトはRIに人頭分担金を支払うことになりました。社会人基盤のRACで年間8ドル（大学基盤は5ドル）とアクトにも支払いやすい額に設定されています。この義務を負うことによって同時に権利も享受できるようになり、条件がありますがRACがグローバル補助金を活用することも可能になりました。少ない人頭分担金で、最低3万ドルの補助金を活用できるわけです。現時点において他地区ではありますが、アクトが単独でグローバル補助金にチャレンジしているとの報告がありました。

2点目は30歳までの年齢制限がなくなったことです。各RACで年齢の上限を設定することができますが、設定しなくてもよいと変更になりました。当地区のRACでもクラブによって活動できる年齢の上限が違います。日本全体では、現状通り30歳までにするクラブが40%、35歳までにするクラブと完全に年齢制限なしのクラブがそれぞれ30%となっているようです。

この2点によって、RACは青少年プログラムの一環ではなくなり、ロータリーとともに活動していくパートナーになったのではないのでしょうか。まだ、完全にこれらのことに対応できているとは言えませんが、他地区の動向をみながら対応していく予定です。

地区大会や地区協議会など、今後は今まで以上にロータリーの様々な行事にアクトが参加していくことになるでしょう。とはいえ20代、30代の若者ですので、ロータリアンの皆さんに気軽に声なんてかけられません。その際は、皆さんから暖かく声をかけていただければ、彼らの緊張もほぐれることでしょう。今後ともローターアクトの活動にご理解ご協力のほど、よろしくお願いたします。

「第4・第5グループ合同 IM」開催報告

第4グループガバナー補佐 古野 重幸 (札幌RC)
第5グループガバナー補佐 平 昌夫 (札幌南RC)

- 日時 2023年3月10日 (金)
18時開会、20時10分閉会
- 場所 札幌グランドホテル「グランドホール」
- 開催テーマ「あなたにとってロータリーとは」
～ロータリーの価値を再発見する～
- 開催趣旨
 1. 「あなたにとってロータリーとは」という問いに対する答えを事前に数多く集め共有することによって、ロータリーの意義とその多様性を学び、再確認する機会とする。
 2. グループ内会員相互の親睦を深める。
- 参加対象者と参加人数
 - ・会長幹事、青少年（又は社会奉仕）委員長、親睦委員長、3年未満会員1名を原則出席義務とし、加えてクラブの規模により参加要請人数を定めた。
 - * 会場の収容能力（コロナ対策を含め）最大180名
 - ・当日参加人数164名 *今回は各クラブの事務局員も参加
- 会費 一人8000円
- 開催費用 上記懇親会代（8千円×164名）以外に冊子製作費220,000円、横断幕44,000円、冊子送料2,100円 計266,100円
* その費用は札幌RCと札幌南RCで折半
- 実施内容
 - ・出席予定者から事前に集めた「あなたにとってロータリーとは」の言葉をA4判の冊子に製本し、受付で全員に配布。* 地区事務所に予備あり（2510地区のホームページにアップ済み）
 - ・石丸ガバナーご挨拶の後、古野・平ガバナー補佐からIMの趣旨説明
 - ・乾杯後の懇親会では各円卓に6名から8名着座。テーブルリーダーを定め、自らの「あなたにとってロータリーとは」を発表し合い、お酒を楽しみながら意見交換を行う。
A4用紙1枚にテーブル毎の参加者の言葉をプリントしたものを用意し配付。
 - ・懇親会のなかで、各クラブの会長から自分の書いた言葉について壇上でスピーチをもらう。
 - ・最後に武部實パストガバナーから講評を戴く。





□平ガバナー補佐挨拶（開催趣旨の参考として）

第5グループ札幌南ロータリークラブガバナー補佐の平です。

まずは第4・第5グループ合同IMに沢山の皆様にご参加頂きまして有難うございました。今回はコロナの影響で3年ぶりのIMとなりました。古野ガバナー補佐とは今回のIMは従来のような講師をお呼びしたり、パネルディスカッションを取り入れたIMではなく、会員の皆さんが主役となり参加できるIMにしようということになりました。そして今回「あなたにとってロータリーとは」～ロータリーの価値を再発見する～というテーマでIMの目的でもある親睦も深めてもらおうということで進めてまいりました。

ここにお集まりの皆様が話し合いもでき、また懇親も深められるようにグランドホテルさんと相談をし、テーブルの人数制限の緩和やアクリル板の撤去をさせて頂きました。また色々準備を進めてまいりましたが至らない点が多々あるかと思いますがお許し頂きたいと思います。そしてIM実行委員会の札幌RCの武部会員、竹原会員、佐藤事務局、札幌南RCの西尾会員、小仲会員、中川事務局にはご協力を頂き有難うございました。

美唄ロータリークラブ 創立50周年記念式典・祝賀会を終えて

美唄ロータリークラブ2022-23年度会長 大坪誠治

2023（令和5）年3月12日（日）に美唄市民会館において、美唄ロータリークラブ創立50周年記念式典ならびに祝賀会を挙行いたしました。この50周年に会長職を任命されたのも何かの「ご縁」と光栄に思っております。

当日は、石丸ガバナーをはじめ、安孫子パストガバナー、嵯峨パストガバナー、上村ガバナー地区補佐幹事、松下第3グループガバナー補佐、ならびに多くのロータリアンの皆様のご臨席を賜り、会員一同心より感謝申し上げます。特に岩見沢ロータリークラブ様には、50年に渡り公私とも美唄ロータリークラブを見守り導いていただけたことに、心よりお礼申し上げます。

永井実行委員長を中心に早くから準備を始め、何度も会議を重ねましたが、やはり前の日リハーサルでは、いろいろな問題が提示され、当日開始まですごく心配でしたが、多くの皆様のご出席と温かいご協力が無事終了することができました。

さて、美唄ロータリークラブは、岩見沢ロータリークラブ様がスポンサークラブとなり、地区50番目のクラブとして、1973（昭和48）年5月31日に創立し、同年6月7日に国際ロータリークラブに加盟を承認され、初代若松不二夫会長以下25名で誕生いたしました。

その後、会員数が50数名まで伸びた時期もありましたが、新入会員の減少と会員の退会ならびに既存会員のご逝去などがあり、現在は17名で活動しております。少数ではありますが、会員相互が親睦と友情の和で結ばれ、非常に温かいクラブであると思っております。

記念式典は、点鐘に始まり、ご来賓の皆様のご紹介、過去10年の物故会員に対する黙祷、坂東美唄市長ならびに石丸ガバナーによるご祝辞をいただいた後、会長である大坪からの挨拶（非常に緊張しました！）、スポンサークラブ表彰、歴代会長・幹事表彰、永年在籍表彰（20年以上）、美唄市への記念品贈呈と肅々と進み、最後に点鐘で無事終了いたしました。これで、まずは「右の肩の荷」が下りました。





次に、同会場にて祝賀会が開催されました。ちょうど国の方針で、次の日からマスク装着は自己判断となる時でしたが、前倒して解禁といたしました。

祝賀会では、美唄名物の「焼き鳥」、「とり飯」、そして美唄の「匠の会」のメンバーにご協力いただき、おいしい「蕎麦」を提供させていただきました。参加された皆様が口を揃えて「おいしい！」といただき、お世辞でもわれわれにとっては非常にうれしいお言葉でした。会の途中では、美唄（茶志内）出身のバイオリニストの杉田知子さんと札幌のピアニストの矢崎有佳さんに、素敵なバイオリンとピアノの演奏をしていただきました。これまでの緊張が薄れるとともに、心が洗われた気持ちになりました。ちなみに杉田さんは私の飲み友達です（笑）



祝賀会も無事終了し、参加された皆様から「よかったよ！」と声をかけていただき、これで「左の肩の荷」が下り開放されたと思いきや、石丸ガバナーから「これは、ガバナー月信にぜひ載せてくださいね～」とお声をいただき、また両肩が重くなりました（冗談です！）

最後になりますが、この度の美唄ロータリークラブ創立50周年記念式典ならびに祝賀会にご出席いただいたロータリアンの皆様に御礼を申し上げますとともに、第2510地区のすべての会員のご健勝とご多幸をお祈り申し上げ、この度の記念式典と祝賀会の報告とさせていただきます。



米山奨学生お礼の言葉／カウンセラーの感想



グエン・ティ・ビック・チン

【出身国】ベトナム

【留学先】札幌国際大学

【奨学金支給期間】2021.4.1- 2023.3.31

【世話クラブ】札幌RC

札幌国際大学心理学科子ども心理専攻のグエン・ティ・ビック・チンと申します。この度、ロータリー米山奨学生に採用していただき、誠にありがとうございました。奨学金をいただいたおかげで生活に余裕があり、学業に専念することができました。奨学金を頂けることから、親に経済負担を減らすことができることで、それは一つ自分の成長の結果でした。経済の他にロータリークラブと出会うことで立派な社会人の方と知り合いになり、自分の悩みに対するアドバイスなどをいつも教えて頂き、留学生の私はとても感謝の気持ちを持ちました。米山奨学生としてこの2年間で札幌ロータリークラブの会員の皆様をはじめ、カウンセラーの宮田さんは日本の保育実習や就職などの大変な時期にもいつもそばにいて「チンさんならできるよ」と応援してくれたりして、心から本当に感謝を申し上げます。18歳から一人で日本に留学していた私は言語や文化で大変なことがたくさんあったが、今までの出来事は自分の努力だけではなく、周りの人から信頼があるからこそ失敗と怖さがなく、前向きを持っていると思います。これから社会人になり、日本で数年間就職してからベトナムに帰国し、ベトナムの幼児教育に子どもに合った保育の提供だけではなく、保育者として保護者にその子どもにとって必要な支援を提供したいと考えています。また、日本の良い幼児教育の文化を保護者に伝え広め、子どもの心の支援もできるように励みたいです。日本で得た知識と実践経験をいかして母国の教育力を高め、幼児教育を発展させることが私の将来計画です。米山奨学生を修了するとしてもこれからロータリーの活動に積極的に参加し、日本とベトナムの架け橋になれるように様々な活動を展開できるようになりたいと思っています。

カウンセラー / 宮田昌利

今回初めてのカウンセラーの役割をいただきましたが、グエン・ティ・ビック・チンさんとの出会いに心から感謝しております。チンさんは自国の幼児教育に貢献するために日本の大学で心理学を学びながら日本の国家資格を取りました。4年間の大学生時期を勉強の一方で、毎日居酒屋で4年間アルバイトなどを続けた、大変な努力家です。例会での卓話も、流暢な日本語とよく調べた資料によるベトナムと日本の幼児教育の比較と、将来に自分のやりたい事を発表して、メンバーにその思いが大変よく伝わりました。日本資格を取得しても何かと制約の多い日本のシステムの遅れなど申し訳なく感じましたが、就職も無事に決まり、これから社会での活躍がはじまります。多くのメンバーからも温かい支援をいただきました。チンさんには、これからも持ち前の前向きな心構えを持って、日本とベトナムの架け橋となっていっていただければと思います。



ナムプラチット スパーボン (カモン)

【出身国】タイ

【留学先】酪農学園大学

【奨学金支給期間】2021.4.1- 2023.3.31

【世話クラブ】岩見沢東RC

私は2021年度の米山記念奨学生のナムプラチット・スパーボンと申します。出身国はタイです。現在酪農学園大学の獣医学専攻博士課程で学んでいます。2021年から米山記念奨学生として2年間お世話になりました。米山奨学生になって、勉強と研究に専念することができ、楽しく幸せな留学生活を送ることができました。留学生活では、獣医学を学ぶだけでなく、たくさんの素晴らしい人々と出会うことができ、日本文化および日本人の仕事に取り組む姿勢を学ぶことができています。また、毎日コミュニケーションをとることで、日本語能力が向上しています。さらに、毎月ロータリークラブの例会に参加し、世話クラブの方々と食事しながら色々な話をした時間は最高の思い出です。特にカウンセラーの西さんには2年間大変お世話になりました。私の悩みや進路について親身になって話を聞いてくださったこと、とても感謝しています。

現在のタイの獣医療は日本や他の先進国と比較すると多くの分野が発展途中であり、中でも高度な外科技術を持つ外科専門医や腫瘍の診断治療に精通する腫瘍科専門医は多くありません。卒業後はタイの大学の動物病院腫瘍科に勤務します。日本で得た腫瘍学に関する臨床及び研究の知識を生かして、母国に貢献したいと考えています。また、タイと日本の獣医学部の学生間交流を発展させるために、交換留学などのプログラムを立ち上げることも力を入れたいと思います。日本の新しい知見を常に取り入れるなどタイと日本の架け橋となる獣医師になるため、日本の獣医師免許とアジア獣医外科専門医資格の取得を目指します。

最後に、ロータリーの皆様には暖かく迎え入れ、支えてくださったことに心から感謝を申し上げます。北海道は私にとって第二の故郷です。

カウンセラー / 西任

タイの留学生、ナムプラチット・スパーボンさん(ニックネーム:カモンさん)を迎えてから2年が経ちます。あっという間に期間終了の時がきてしまったように思います。カモンさんは、タイで獣医師の免許を取得した後来日しました。酪農学園大学獣医学部博士課程で4年間学び、獣医師の国試に合格する事で日本の獣医師免許を取得することが目的です。単身で言葉も文化も違う国に来て学び生活することがどんなに大変な事は私にも想像が出来ます。しかし、来日したいという熱意が勝ったのでしょうか。この様な若い女性ですので、その細い体からは想像つかないバイタリティがあります。そしていつも笑顔。コロナ禍で活動が思う様にいかない、もどかしい気持ちがあった私たち会員の方が勇気づけられた様な気がします。

短く感じた2年間でしたが、振り返れば色々なことがありました。日本の文化に触れてもらう為、浴衣や着物を着せたり、会員のお寺に連れていったり、日本食を食べ歩いたり、雪の降らないタイから来たカモンさんにスキーを教えたりと会員もそれぞれ一生懸命、自分の子供や孫の様に接してきました。また、喜んでくれる姿に、もっともっと何かやろうと私も会員もどんどん熱が上がっていきました。苦労も多いと思いますが、それを見せずにいつも笑顔で元気な彼女の姿が人を惹きつける力になっているでしょう。

でも、別れの時が近づいてきました。カモンさんは、今年の秋にタイに帰り自国の大学の獣医学部で講師になる事になりました。獣医師として学ぶことの多い日本に、学生を留学させる手助けもするそうです。そして、講師を数年した後は再び来日し日本で獣医師として働きたいという希望を持っています。ただ、再来日する前に私たち会員の方がタイに行くという話になっています。自国で見た日本のアニメに興味を持ったことから始まったカモンさんの日本との関わりは、今、タイ国初となる日本とタイの両国獣医師免許保持者として、彼女しか出来ない大きな橋を日本と祖国に掛け様としています。カモンさんという素晴らしい人と出会うことが出来た事に大変感謝しています。カウンセラーは終わりますが今後の彼女をずっと見守っていきたいと思います。



周宇翔

【出身国】中国

【留学先】北海道文教大学

【奨学金支給期間】2021.4.1- 2023.3.31

【世話クラブ】札幌はまなすRC

私は北海道文教大学グローバル研究科2年生、周宇翔と申します。私は米山奨学生になって以来、修士論文に専心することができ、授業でも沢山知識を得ました。その中でロータリークラブの例会にも積極的に参加し、ビジネス会話をなめらかにすることもできるようになりました。授業の余暇にも、より当地の小中学校のコミュニケーションイベントに参加して、私の言語力を大いに向上させ、各年齢層との交流経験を得ました。

大学期間はバスケット部に入って、部活に参加して周りの先輩に支えてもらいながら一緒に練習し、集団意志の精神を感じました。北海道の大学バスケットリーグ戦まで参加しバスケット場で活躍したり、積極的に部活に参加したりすることによって、唯一の外国人部員でありながら、他の部員たちの信頼を得て、愉快的雰囲気にも溶け込みました。他にも大学期間は友人の外国語塾でバイトしながら、日本での職場経験を積んでいます。

私の大学院研究課題は飲食に関する慣用表現において用いられている言語表現そのものに焦点を当て、分析を行います。慣用句は会話や文章で使うと、表現の幅を広げることができます。慣用句の表現内容を理解できれば、コミュニケーションがスムーズになります。言語における慣用句対照研究では、これまで民族性や文化・歴史、あるいは地理的条件などに基づくものが多く見られるが、言語表現そのものを分析対象として扱った研究は、それほど多いとは言えないからです。

今年大学院を卒業する留学生にとって、就職活動は学生時代最後の戦いと言っても過言ではない。留学生を採用する企業は多いが、強い日本語力が要求され、言語力は採用結果を左右しています。留学生にとって、言語という壁が高く、自分の希望通りに就職することはさほど容易ではない。留学生が日本で就職する夢を実現するためには、日本語力な以外にもさまざまな技能を身に付け、なんらかの対策を考える必要があります。それは良いチャンスであるとともに、チャレンジ精神が必要です、そこは覚悟をすべきです。現在就職の内定を決めた後でも、自分のキャリアが始まります。内定をもらったとしても、異文化理解と語学力の強みを発揮できるかどうか、将来はどんな人間になりたいかななどの疑問を事前に考えておくべきだと思い、そうすると就職も将来のキャリアも、よりもっと順調に進めます。もしこれからお仕事でころんでも、それは失敗ではありません。なぜかという、失敗は成功のもとだと強く信じているからです。これからも頑張ります。

カウンセラー / 齊藤淳一

カウンセラー？突然の事でした。当クラブの理事会で次の米山奨学生のカウンセラーを私が任命されてロータリーにNOは無いと諸先輩方から教わった私は「はい。」と二つ返事でお受け致しました。

さて、カウンセラーとは何をするのか？？不安の中で奨学生との初顔合わせ、そこに奨学生の周宇翔さんと初めて会った時に爽やかな笑顔で挨拶された時、私の中にある不安は一気になくなり安心したのを今でもハッキリ覚えております。後は言葉と文化そして価値観さらに年代のギャップなど色々ありますが、さすが奨学生に選ばれただけあって非常に能力のある素晴らしい青年で話をしていく度にまるで自分の子供の様な感覚でした。彼は住まいと大学が恵庭市にあり、当クラブの例会場は札幌の北24条です。さすがに毎回例会に出席するのは無理かなあ～と思っていましたがところが例会には毎回出席して当クラブの会員より出席率が良いくらいです。

奨学生の周さんとの一番の思い出は周さんの誕生日にプレゼントしたら今度は私の誕生日を調べて靴をプレゼントして貰いました。足のサイズも教えてないのに履いてみてピッタリでビックリ!!どうやって私の足のサイズを調べたのか？

奨学生を修了して室蘭の企業に就職が決まってお互いの距離が遠くなりますが「お正月に家に遊びに行きますね」と言われ、「お正月と言わず困った事があればいつでも電話してね」距離は離れても心は離れる事が無いでしょう。カウンセラーをお受けして本当に大切な絆と掛替えのない経験と出会いを頂き感謝しております。



デムベレルドルジ ボロルツェツェグ

【出身国】モンゴル

【留学先】北海道医療大学

【奨学金支給期間】2021.4.1- 2023.3.31

【世話クラブ】札幌西RC

私は2021年度の米山奨学生のデムベレルドルジ ボロルツェツェグです。私は、北海道医療大学の大学院歯学研究科・歯学専攻博士課程、小児歯科学分野に所属し、今月で無事に卒業しました。大学院1年生の時、これからどのような生活になるのか楽しみでした。すぐに研究テーマをいただき、研究生活がはじまりましたが、実は経済的には大変でした。その時、教授からロータリー奨学生を勧められ、2年生の時応募し、奨学生になりました。この2年間は私のこれまでの人生の中で、最も充実した素晴らしい2年間だと思います。組織として活発な札幌西ロータリークラブに所属し、活動することになりました。

札幌西ロータリークラブは人が皆温かく、信頼できる関係を築くことができました。様々な分野の人たちが所属しており、私の視野もとても広がりました。この会を通して、米山奨学生としての使命と役割を理解し、将来の方向性も明確になりました。私の好物のジンギスカン料理を食べたり、カラオケで日本のPOPソングを歌ったり、メンバーの家に招待されたりしてとても楽しかったです。春は北海道神宮に花見に行ったり、秋には京都の紅葉見に連れて行っていただきました。京都では舞妓さんの体験をして、日本文化に直接触れることができ、私の一生の思い出となりました。インプラントのデンタルクリニックも見学させていただきました。この2年間は、このようにとても充実した日々で、ロータリアンの皆様のご親切に心から感謝を申し上げます。これらの宝物のような経験は今後の私の糧になると思います。ロータリーの活動を通して感じたことは、米山奨学生になって以来、たくさんのロータリアンと交流ができて、日本文化と社会知識を深く知ることができ、とても有意義な期間だったと思います。

母国モンゴルと北海道での留学経験のことについて多くのロータリアンに紹介することができ、とても嬉しかったです。最後の例会では、私のクラブ終了式での素晴らしい映像を見て、とても感動いたしました。今まで皆様が私のためにしてくださったいろいろな記念行事に心から感謝します。ロータリアンの皆様の優しさに溢れて涙が溢れ出てしばらく止めることができませんでした。本当にありがとうございました。

私は皆様の優しい心と笑顔を一生忘れずに、感動の気持ちを持って、生きていくつもりです。このような経験をさせていただき、本当に幸せです。ありがとうございました。

カウンセラー / 川村忠

最初は控えめでおとなしい印象を受けましたが、実際は、何事にも積極的に前向きに取り組む姿勢には感銘を受けました。SNSでもいろいろ発信し、楽しい日本生活を送っています。自宅のカラオケパーティーでのプロ顔負けのパフォーマンスは楽しい思い出です。

ボロルさんは、モンゴルと日本の大切な架け橋になってくれるだけでなく、日本の良さや楽しさを世界に発信できる貴重な人材です。

そして、我々札幌西ロータリークラブにとって大切な友人になってくれました。

これからの活躍を心から期待しています。

寄稿：中村真規



那日蘇

【出身国】中国

【留学先】北海道大学

【奨学金支給期間】2021.4.1- 2023.3.31

【世話クラブ】札幌幌南RC

中国内モンゴル出身の那日蘇です。私は米山奨学生として、この機会を与えていただき、大変感謝しております。米山奨学金は私にとって、日本での研究を行うために必要な財政的支援だけでなく、国際社会に貢献するためのスキルや知識を身につける機会を与えてくれるものです。

私は奨学金期間中、お陰様で学業と就職活動が両立することができました。北海道大学ではリグノセルロース系バイオマスのエネルギー化に関する研究に取り込んでおりましたが、これからは民間企業でそういった資源を用いてCO2削減に貢献する環境に優しい製品の開発に携わる予定です。キャリアプランに関しては、まず研究開発職に就き、経験を積み上げたいです。将来的には、専門知識と語学力を結びつけて、技術営業になり、日中両国そして世界との架け橋になるよう、努力して参ります。

また、この期間中はカウンセラーの志田先生をはじめ、多くの人々と出会い、大変お世話になりました。これらの出会いは、私にとって非常に貴重なものであり、今後の人生においても大きな影響を与えるものと確信しています。

私は、この名誉ある奨学生になれたことを光栄に思い、謙虚な気持ちで、ロータリーの価値観を守り、世界に良い影響を与えることができるよう、最大限の努力をしたいと思います。

4月からは奨学生の身分を失いますが、これからは学友、社会人といった新しい身分でロータリーとの関係を更に深めていきたいと思えます。

最後に、改めて米山奨学会の皆様のご支援とご鞭撻に深く感謝申し上げます。

カウンセラー / 志田勇人

3月27日に行われた米山セミナーで初めて那日蘇さんにお会いした時の印象は、米山奨学生は皆さんそうなのかもしれませんが、真面目で誠実な学生さんだという点でした。忙しい研究の間にも必ず例会の行事には参加されますし、私以外の会員の方とも積極的に交流を持とうとする姿勢を感じました。また2月に日本人の方と国際結婚され、奥様も一緒にご自宅にお招きして食事した際は、私も私の家族もまだ見ぬ中国の事などを聞いて大いに刺激されたと同時にとても楽しい時間を過ごすことができました。その後もこの半年の間に那さんがバイト先で働いていたモンゴル料理店に招待していただき本場のモンゴル料理を堪能しました。夏には札幌幌南ロータリークラブの名物行事であります豊平川の花火大会の参加など交流を深めることが出来ました。今年は大学院生最後の年で来年の就職に向けて就職活動と卒業のレポート作成を並行して行わなければならないとのことと那さん自身、かなりのハードスケジュールのようでしたが、無事に本州の会社に就職が決まり、その就職祝いの2次会では那さんの好きな日本の歌をカラオケで歌っていただき楽しい思い出ができました。このようにコロナ禍ではありましたが色々交流できたと思えます。

今後は彼の専門的な知識と語学力を生かしてきっと日中両国の架け橋になってくれることと思えます。奨学生は卒業ですが、那さんの奥様が札幌の方なので帰札された際などまた食事にでもいきたいと思っております。



伊拉嘎其

【出身国】中国

【留学先】室蘭工業大学

【奨学金支給期間】2021.4.1- 2023.3.31

【世話クラブ】室蘭RC

私はこの3月の卒業を迎えた今、室蘭工業大学へ研究生として入学した時から、博士前期課程を経て、博士後期課程までの6年間を振り返ってみると、思い出の一つ一つがつい最近のこのように思い出されます。入学した時は留学生活に悩みがたくさんありましたが、出会った先輩や友達、及び事務職員の方々の熱心なご支援のおかげで、留学生活にすぐに慣れることができましたと思います。最初の数年間は、アルバイトにて生活費を稼ぐとともに色々な日本人の方々と知合いになり、多くの日本人の友達ができました。その時、私は友達や先輩たちと一緒に遊んでいたが、この数年は新型コロナウイルスの全世界的な流行により、私たちの生活様式は一変し、友達に会うことでさえ厳しくなっていました。今まで一緒に見学旅行や地元のお祭りに参加していたことがどれほど幸せなことが実感しました。ここで、新型コロナウイルスの感染対応に尽力されている医療従事者等の皆様には心より御礼申し上げますとともに、1日も早くコロナ禍が終わることを切に願っております。

このコロナ禍の中、米山記念奨学生として受け入れていただいた私はアルバイトやコミュニケーションの時間をほとんど研究時間にすることで勉学に専念することができたため、規定時間内にこの博士後期課程を卒業する今を迎えたと思います。米山記念奨学生はただの奨学金を受けることではなく、ロータリアンの皆様に分身の人間性、未来の社会における貢献価値及び両国の架橋の一部になれることが認められたということです。ここで、いつも暖かく見守ってくださったすべての方々に感謝を申し上げるとともに、ロータリークラブのさらなる発展と活躍を願っております。もちろんですが、私はロータリークラブからいただいたこの認めを誇りと思いつつ、今後の道では社会に活躍していきたいと思っています。

カウンセラー / 北川浩一

2021年4月から2023年3月までの2年間、米山奨学生の中国内モンゴル自治区出身のイラガチさんのカウンセラーをいたしました。

この2年間、カウンセラーとして奨学生のケアを行うという場面は無かったように思います。大学生と言ってもイラガチさんは大変自立した、成熟した人格の持ち主で、自分の置かれた環境の中でどのように行動すべきかを十分理解していました。また大学内に同じ中国の仲間も多く、孤独感や孤立感などの心配をすることもありませんでした。

奨学生に選ばれる前のアルバイトの苦労話を聞きました。コンビニか登別温泉のホテルでのアルバイトで、バスでの通勤に時間がかかり実働時間の他に多くの拘束時間が必要であった事を話していました。奨学生レポートにもありましたが、米山奨学生になった事で非常に多くの時間を本来の研究に向ける事が出来、その結果次のステップに進むことが出来るようになった事がこの制度の最大の効果であると感じました。



アリシャ ヌルシャフィカ ビンティ アマト ダラン

【出身国】マレーシア

【留学先】室蘭工業大学

【奨学金支給期間】2021.4.1- 2023.3.31

【世話クラブ】室蘭北RC

私は室蘭工業大学からのアリシャ ヌルシャフィカ ビンティ アマト ダランです。ロータリー米山奨学生として2年間室蘭北ロータリークラブの皆さんにお世話になっておりました。特にカウンセラーの川本先生にはいろいろ大変お世話になりました。いつも私に優しく、いろいろなことを応援してくれました。米山奨学生になった通りに、私は奨学金をもらうことだけでなく、大学で工学を勉強する以外に色々なことを経験できました。様々なロータリークラブのメンバーと交流できて、大切なアドバイスを教えていただきました。そして、果物狩りや食事会を一緒にやってきました。また、私はローターアクトクラブにも参加しました。ローターアクトクラブでは私が日本についてもっと学べ、日本でボランティア活動もやりました。その時、知識やコミュニケーション能力をよくして、新しい友達もできました。本当に楽しかったです。

ですから、米山奨学生になったことが本当にありがたいです。2年間でお世話になった思い出は忘れずに、いつも大事にしたいと思います。その際に、大切な経験が多くもらいました。それから、カウンセラーの川本先生、室蘭北ロータリークラブの皆さま、およびローターアクトクラブメンバーに対して、もう一度大変ありがとうございましたという言葉伝えたいです。卒業後に、横浜市で就職する予定です。そのため、室蘭で経験した多くの事を横浜の会社に働く時も活かして行きたいと思います。最後にマレーシアと日本の架け橋になれるような人間になれるよう頑張りたいと思います。

カウンセラー / 川本康裕

この度2022~2023年度カウンセラーをこの3月で終える事になりました。担当はマレーシア国籍のアリシャ ヌルシャフィカ ビンティ アマトダランさんです。室蘭工業大学博士課程2年間の継続米山奨学生でした。専攻は情報電子工学系専攻の所謂理系女子です。私自身カウンセラーと言う立場は初めてなのでどういう事をする役目なのか大変不安でした。また宗教的にラマダンや食事の内容等に付いても本人に聞きながら私自身も勉強になりました。2021年4月に初めてのカウンセラーのオリエンテーションが開催されそこで初めてアリシャさんと顔合わせをしました。私は個人的には留学生との交流をしたことは有りますがロータリーを通してオフィシャルな交流は初めてで緊張しましたが出来るだけ私の方から会話をする様に心掛けました。ただコロナ禍の中、多くの活動が制限されカウンセラーとして彼女の役に立ったか疑問ですが、他クラブに卓話を頼まれたりして米山奨学生として活動しました。また彼女をローターアクトクラブに入会してもらいアクトのメンバーとの交流も行なっていました。

長いようで終わってみればあっという間の2年間でした。4月からは横浜の企業に就職が決まっております。向こうに行っても米山奨学生として過ごした2年間の経験を活かして元気で頑張りたいと思います。私も機会があれば必ず横浜の方へ伺いたいと思います。

アリシャありがとう。



孔莉君

【出身国】中国

【留学先】小樽商科大学

【奨学金支給期間】2021.4.1- 2023.3.31

【世話クラブ】小樽南RC

皆様、こんにちは。小樽南ロータリークラブにお世話になっている孔莉君と申します。現在は小樽商科大学現代商学専攻の大学院2年生です。今年は日本に住んで3年目なので、日本の生活はもう慣れました。私の地元はめったに雪が降らないので、小樽に引っ越してきたときは大きな喜びと期待でいっぱいでした。最初は、小樽に引っ越しても友達がいないので、居心地が悪く、少し寂しいかもしれませんが、学校の国際交流会館に移ると、世界各国の友達ことができました。そして、いろいろな国の習慣や文化に触れ、イベントに参加して、たくさんのことを学ぶことができました。

私の研究内容は職場におけるインクルーシブ・リーダーシップと従業員の心理的安全性及びその効果に関する研究です。「最高のチームを作る要因が何か」を突き止めるためのGoogleが2012年から約4年をかけて社内で行った実験「アリストテレスプロジェクト」でチームの生産性やパフォーマンス向上に必要な要因として「心理的安全性である」という結果が公表されました。今まで「阿吽の呼吸」や「空気を読む」ことを大切にしてきた日本人に対して、心理的安全性を作るのが難しいと考えるので、このテーマを選びました。

あっという間に、米山奨学生として、今年があと一か月ですね。間違いなく、この1年間は私のこれまでの留學生活の中に、最も充実した1年間だと思います。私は米山奨学生になってから、たくさんのロータリアンと交流ができて、日本文化と社会知識を勉強になって、とても有意義な奨学会だと思います。1か月1回例会に参加させて頂くことによって、皆さんの奉仕精神を凄く感じました。皆さんとお話を聞きまして、ロータリー精神にも徐々に理解できました。そこで、自分は日本と中国の懸け橋になるだけではなく、将来的に社会に貢献し、世界平和のために寄与できる人間になることが期待されていることを考えております。

また、ロータリー米山奨学金のおかげで安心して活動に励むことができました。修士論文を合格して、仕事も決めました。4月から札幌の西山製麺株式会社で働く予定です。私は北海道の美味しいラーメンを日本全国だけではなく、海外のお客様にも届けるようにがんばります。

最後に、米山奨学生になって凄く幸運だと思っています。優しいロータリアンと出会い、たくさんのお話ができて、仲良くなったような感じがして非常にうれしいです。この縁が繋がりになって奨学生終了後でも、ずっと続けていきたいと考えております。

カウンセラー / 地山敬胤

小樽南RCでは、米山奨学生世話クラブとして昨年4月より小樽商科大学に通う中国出身の孔莉君さんを一年間サポートして参りました。

孔さんは大学寮で様々な国籍の学生と生活し勉学に励む一方、コロナ禍で不安やストレスも重なり困難も多かったと思います。しかし、それらをうまく対処し仲間たちと苦楽を共にすることで、より自信に繋がったのではないかと感じています。

クラブ例会においても、積極的に参加しいつも笑顔で接する姿が印象的でした。周囲にも溶け込み、大変多くの事を学ばれたことでしょう。

就職活動では、希望の企業から内定をいただきクラブ一同安心しています。今春より社会人となり、志でもあった日中友好の架け橋となれるよう国際関係に貢献してもらえることを願っています。そして米山記念奨学会と小樽南RC一同とのご縁を大切に、今後も色々な人に出会い、新しい価値観に触れ、謙虚な心で一歩ずつ歩んでもらいたいと思います。



ニュー チョウソ バオ チャン

【出身国】ベトナム

【留学先】北洋大学

【奨学金支給期間】2021.4.1- 2023.3.31

【世話クラブ】苫小牧東RC

2年生の時、大学の先生がロータリー米山記念奨学会の奨学生を募集していることを留学生の皆に伝えました。そのことを聞き私は応募を決めました。応募をするのにレポートを手書きで何回も書き直し、面接も何回も練習してもらいました。頑張った結果、ロータリー米山記念奨学会に奨学生として選ばれとても嬉しかったです。

苫小牧東ロータリークラブに配属され、もうすぐ2年経ちますが、苫小牧東ロータリークラブの皆様には経済的な支援だけでなく、日常生活や就職活動に困った時、親身になって相談にのっていただき適切なアドバイスをいただいて、とても感謝しております。

今、ロータリー米山記念奨学会に奨学生として選ばれて、初めて札幌で第2510地区ロータリー米山記念奨学会の例会に出席した時の事を思い出してみると、嬉しい気持ちと共に緊張と不安が多かったです。元々人見知りの性格で、ちゃんと周りの奨学生やカウンセラーさん、苫小牧東ロータリークラブの皆様と交流できるか心配していました。しかし、苫小牧東ロータリークラブの皆様が優しく話しかけてくださり、どんどん慣れてきて心配していた、人と話すのが苦手なところもいつの間にか消えていました。

奨学生期間の2年間は長いようで、短かったと感じております。この2年間でカウンセラーの青山さんに沢山お世話になりました。学校のこと、生活のこと、就職活動で困ったり悩んだりした時に、いつも青山さんに相談し適切なアドバイスをいただき、青山さん、クラブの皆様にも色々お世話になって、心から感謝しております。これからロータリー米山記念奨学会の皆様とお別れで、寂しい気持ちがたくさんありますけれど奨学生として選ばれた時から今まで、そしてこれからの社会でいつも皆様と出会ったことを心から感謝し、ロータリー米山記念奨学会に選ばれ成長してきた人間だと誇りをもって行動していきたいと思えます。

カウンセラー / 青山晴美

2年前の米山奨学会のオリエンテーションで奨学生のバオチャンさんに初めてお会いし、日本語がとっても上手でホッとしました。1年間のカウンセラーとお引き受けしたところ、2年間という事でびっくりした事を思い出しております。奨学生のバオチャンさんはとっても爽やかで素敵な女性です。

コロナ禍のためなかなか深いお付き合いが出来ませんでしたが、2年間で少しずつ絆を深めあいました。エピソードも沢山ありますが、少し紹介しますと、クリスマス例会、会員・家族・留学生新年会、奨学生もベトナムの民族衣装を着て参加してくれました。寒い、寒いと言っておりました。(笑)令和4年3月3日の例会は、日本独自のひな祭りなのでケーキ、桜餅、うぐいす餅を用意しお祝いをしました。その日はバオチャンさんの誕生日でもありましたので感激してもらいました。そのあとケーキと一緒に食べたお友達がコロナに感染していてバオチャンさんもコロナになったというオチのつく誕生日でした。

(笑)どちらかと言うと無口な奨学生ですが、就活の事、住居の事、ボーイフレンドの事、いろいろ、お話してくれて、娘のように思っております。またカウンセラーとしてわからない事はすぐに入井さんに連絡しいろいろアドバイスいただき勉強になりました。ありがとうございました。本当にカウンセラーをさせていただき良かったと思えました。



朱 妍卉

【出身国】中国

【留学先】北海道大学

【奨学金支給期間】2021.4.1- 2023.3.31

【世話クラブ】函館五稜郭RC

奨学金のご支援をいただきまして、誠に感謝しております。

博士課程の3年間、米山奨学金の名に恥じぬよう、及ばずながら学業に学校生活にと全力を尽くしてまいりました。振り返ってみると、至らない部分もありましたが、自分なりに有意義な実り多い学生生活を過ごすことの出来た3年間でした。米山奨学金のご支援のおかげで、学業に専念でき、投稿論文7本（筆頭著者4本、共著3本）、学会発表3回（国際学会1回、国内学会2回）を行いました。奨学金のご支援を頂くまででは、アルバイトしながら大学に通っていましたが、このままの生活だと3年間で卒業できるかどうかは非常に不安でした。その時の私を救ったのは米山奨学金でした。アルバイトの時間を減らすことができたため、自分の研究に集中でき、自分にとっては悔しさのない業績で卒業できました。

また、自分の所属する函館五稜郭RCに深い感謝を申し上げます。私は人の前でスピーチすることが非常に苦手で、緊張すると頭が真っ白になります。しかし、卓話の時、クラブの皆様が暖かい目で見られて、皆様から笑いも取れて、全く緊張せずに発表ができました。高い山を乗り越えたような気持ちになれました。本当にお世話になりました。さらに、一番感謝したいのは、私のカウンセラーです。いつもそばで見守ってくださって、本当に感謝申し上げます。人の前でスピーチするのが苦手なのを知った後、他クラブでの卓話の際に、いつも同行して下さってありがとうございます。母国に長年帰っていないことを知った後、中華パーティーをやってくださってありがとうございます。いつも学業の心配、体調の心配をしてくださってありがとうございます。感謝の気持ちが一杯で、書ききれないほどあります。

これから新たな人生の一步を踏み出しますが、こうして私を支えて下さった皆様へのご恩と感謝を忘れず、より一層精進して参りたいと思います

カウンセラー / 光錢裕二

北海道大学大学院博士課程の朱妍卉さんにカウンセラーとして関わるようになって、あっという間に2年が経ちました。新型コロナウイルス感染症の流行真ただ中の2年間でしたので、とにかく健康で元気に研究生生活を送ってくれたらと願うだけでした。しかし彼女のコロナウイルスをも吹き飛ばすほどの明るさとバイタリティー、そして完全な日本語が力となって多くの論文を書き上げ、国際学会を含めて多くの学会で発表できたことは、彼女にとって大きな自信になったと思います。そして3月にはめでたく「博士」の学位を取得することができました。本当に嬉しく思いますと同時に安心しました。

ロータリー活動では月一回の例会や夜間例会への出席はもちろんですが、10・11グループ内のクラブでの卓話も、どこのクラブへ伺っても笑顔を絶やすことなくコミュニケーションを上手にとっていました。この点で多くのロータリアンと交流を持つことができたと思います。2年間で学んだロータリーの考え方を活かして今後は「学友」としてロータリーとの絆を保ち続け、この経験を自分の人生に、そして国際社会のために生かしていただきたいと思います。



ダーキスト マルバ クララ

【出身国】スウェーデン

【留学先】北海道大学

【奨学金支給期間】2021.4.1- 2023.3.31

【世話クラブ】新札幌RC

ロータリー米山記念奨学会の奨学生としての一年間は、私にとって非常に貴重で有意義な経験でした。まず、毎月開催される例会で卓話をしたことです。卓話では、自分の出身国や文化、研究内容や将来の夢などについて発表しました。また、ロータリアンの方々からも様々な話題や知識を聞くことができました。卓話を通して、私は自分自身や自分の専門分野について深く考えることができました。また、異なる国や背景を持つ人々とコミュニケーションする能力や理解力も向上しました。

次に、世話クラブから紹介された地域活動で、養護施設への訪問する機会を得たことです。養護園で、子どもたちと一緒に遊んだり話したりしました。みんなが私を温かく迎えてくれて、楽しい時間を過ごすことができました。その時、子供たちの笑顔や元気さに感動しました。また、職員との交流で、日本の社会福祉制度や現場の課題について知ることができました。

最後に、ロータリアンの方々との交流です。彼らは私たち奨学生を応援してくださり、様々なアドバイスや励ましをしてくださりました。特に印象的だったのは、「ロータリー四つのテスト」です。「言葉・行動・思想」が「真実か」「公平か」「好意と友情を深めるか」「みんなのためになるかどうか」という四つのテストです。これは私にとって人間性や倫理観を高める指針となりました。

このようにして私は米山奨学生として充実した1年間を過ごすことができました。これもすべてロータリー米山記念奨学会や世話クラブの皆様方のご支援のおかげです。世話クラブから多くの学びや刺激を得ることができました。今後も引き続き努力し、母国や日本や世界に貢献できる人材になれるよう頑張ります。



チャイ・ソダヴィ

【出身国】カンボジア

【留学先】酪農学園大学

【奨学金支給期間】2021.4.1- 2023.3.31

【世話クラブ】江別RC

カウンセラー / 金田一夫

1年半にわたり、酪農大学で獣医師を目指す学生さんをお世話する事となり、カウンセラー初心者の方としてはハラハラドキドキのスタートとなりました。オリエンテーション時、はきはきとした受け答えと祖国カンボジアで獣医師を目指す強い意志を感じファンになりました。コロナ禍で活動も停滞気味ながら、進んで参加いただきクラブ全員のアイドルとなりました。家族の話をする中で、ポルポト一派の悪政で過去に身内が多くなる内戦（戦争）の無惨さを聞くにつけ、平和の大切さを痛感しました。彼女の祖国が難しい国際情勢の中にあるようですが、夢をかなえ祖国の平和と希望がかなえられることを願っています。

財団奨学生・米山奨学生紹介

「奨学生の紹介」

2023-24年度財団奨学生

堺 友里

■はじめに

この度、国際ロータリー第2510地区補助金奨学生に選出頂き、今夏よりマサチューセッツ工科大学へ都市計画修士号取得を目的とした大学院留学の機会を得た。インフレや円安等の影響もあり、このような支援を頂戴することに心より感謝申し上げます。ご支援いただく皆様へのご挨拶を兼ねて、自己紹介や志望動機、留学先の概要等を記す。

■大学院留学への経緯

自身は高校時代までを札幌市で過ごし、大学入学を機に地元を後にした。学生時代は、仙台で土木工学を学び、在学中に東日本大震災に見舞われた。毎日のように続く余震、原子力発電所の影響等の不安の中、それでも、復旧・復興のために奔走する教授陣や土木技術者、海外からの研究者、留学生、土木工学専攻の学生でありながら今は何もできないことを嘆く学友の姿を間近に見るうちに、いつか自分も日本社会、国際社会に貢献できればと、防災分野を軸にキャリアを歩みたいと考えるようになった。

大学卒業後は、現在に至るまで土木行政に携わってきた。社会人になりたての頃、将来深刻な少子高齢化が懸念される地域の強靭性を高めるためのインフラ計画立案等に従事し、地域社会の持続可能性を高めることを念頭に、防災・減災に取り組むことの難しさと重要性を学んだ。その後、かねてより自身も防災分野において国際社会へ貢献したいと考えていたことから、ジュネーブにある国連防災機関（UNDRR）勤務を希望し、半年間働くこととなった。UNDRRは、国連組織の防災担当部局として、各国の防災政策実施支援や防災に関する国際的な指針の実施推進等を行う組織であり、自身も各国及び関係機関とともに普及啓発イベント開催やガイドライン作成等を行った。その過程で、防災施策実施に必要な技術者確保や資金調達が困難である等の他国の現状を知るとともに、脱炭素化や気候変動対策等社会の持続可能性向上のために必要な取組に対し、多様なアプローチを行う各国・関係団体の状況を知った。

今後長期的に当該分野で日本社会及び国際社会へ貢献するためには、一度日本という枠組みを外れ、社会の持続可能性向上について、腰を据えて学ぶ必要があるのではないかと考え、今般大学院留学を目指すに至った。

■ロータリーとの出会い

臆気に留学を意識していた頃から、国際ロータリーの奨学生に出会う機会が多く、また、その誰もが志高く、教育や平和構築等の自身の専門分野で国際社会及び地域社会への貢献を目指す魅力的な方々であり、彼らのような人々と一緒に活動がしたいと感じていた。また、高校卒業以降、地元を離れており、地域の地域社会への貢献思いと相まって、当該地区の奨学生へ応募させていただいた。今後は当該地区活動にも、積極的に参加させていただければ幸いである。



国連ジュネーブ本部にて

■ MITの概要

当方の留学予定先であるマサチューセッツ工科大学（英名：Massachusetts Institute of Technology, 通称：MIT）は、米国マサチューセッツ州ケンブリッジ市に位置する私立工科大学であり、また周辺にはハーバード大学やボストン大学、タフツ大学等多くの大学・研究機関が集結していることから、その環境はLiving Laboratoryとして名を馳せる。予定所属学科はDepartment of Urban Studies and Planning, School of Architecture and Planningであり、ここで2年間の都市計画修士課程に在籍予定である。同大学他専攻の授業のみならず、ハーバード大学等の周辺他大学の授業履修も可能であり、学生の関心に応じて柔軟なカリキュラムを組めることも特徴となっている。現時点では、Global Climate Policy and Sustainabilityや Economic Development等持続可能性及び経済発展に関連した講義を中心に履修したいと考えている。

大学選びについては、可能な限りの情報収集に努め、プログラム内容、校風、周辺環境、教授陣の研究、在籍する学生の志向等を鑑み、自ずとMITが第一志望となった。世界中から集まる学生、研究者、実務者と過ごす2年間でどのようなものになるか、どのような学びを得ることができるか、今から大いに期待している。

■ おわりに

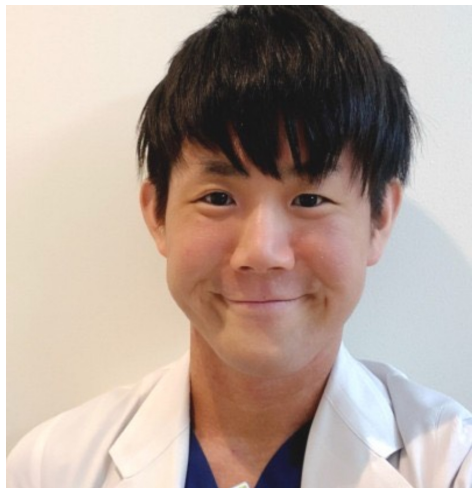
留学が実り多きものとなるよう、留学開始に向け今からできる限りの準備をするとともに、留学後も引き続き持続可能で強靱な社会の構築に邁進すべく、この貴重な機会を最大限に活かし、しっかりと勉学に励む所存である。最後に、今回の留学に際し、当該地区の皆様より多大なるご支援を賜りここに深謝の意を表します。

「自己紹介と留学に向けての抱負」

小林 献

初めまして。ロータリー財団の奨学生の小林 献と申します。この度、ご支援を賜る機会を頂けたことを、この場をお借りして感謝の意を述べさせていただければと存じます。

改めまして、私の簡単な自己紹介と留学へ向けての抱負を述べさせて頂ければと存じます。私は札幌で生まれ育ちました。私が小学生の頃、冬休みの1ヶ月ほど、山口県に住んでいた祖父が毎年札幌に遊びに来ていました。生まれが樺太だった祖父は、北海道をまるで自分の故郷のように感じていたようで、毎年遊びに来ては趣味のスキーや北海道の食を堪能することを心待ちにしていました。当時の私は、祖父が来札すると週末には必ず手稲オリンピックやキロクの雪山まで駆り出され、スキーの手ほどきを受けました。山口県民にスキーを教えられるとはなかなかの皮肉ではありますが、こうして私は育てられ、自信をもって「道産子です」と言えるまでにスキーの腕前も成長しました。



さて、私は大学を卒業した後、医師として働き始めましたが、当時、興味があった分野の最先端を求めて、社会人になり初めて大好きな北海道を出る決断をしました。その後、計6年間にわたり大阪、東京、横浜の病院で研鑽を積んできました。この臨床医の経験は非常に密度の濃いものでした。多くの患者さんを診療する中で、診療スキルが身につく、知識が増え、さらに多くの患者様の役に立てるようになる喜びは大きいもので、夜勤を挟んで丸2日間を不眠不休で診療をしたり、深夜に病院から呼び出されて治療にあたるなども日常茶飯事でしたが、多忙な中に強いやりがいを感じていました。

そのような状態の中で、変化があったのが2020年でした。新型コロナウイルス感染症のパンデミックが発生し、その影響が本格的に日本にも波及したのです。医療需要が既に多い中、病床はあっという間に逼迫し、私の所属していた病院も含め、多くの病院が診療キャパシティの限界を迎えました。複数の病院に救急搬送を断られて、私たちが診察したときには手遅れで助けられなかった患者様や、多忙な中疲弊する医療従事者の同僚を目の当たりにして、自分の無力感や、将来への危機感を感じるようになりました。

日本は世界で最も高い高齢化率の国です。長寿大国であるのは大変誇らしいですが、その一方でこの高齢化の流れは続き、医療を必要とする高齢者の数は今後も2060年まで増え続けると推測されています。状況がこのまま変わらず、何か変革が起きなければ、遠くない未来に平常状態でコロナ時のように医療崩壊が起きるのではと感じたのです。一方で、私は昔から図工や作曲など、何かゼロから新しいものを作ることが大好きでした。自分の医師としての知見を使って、将来、予防医療や治療機器を創り、限られた医療者の人的資本でより多くの患者様を助ける未来に貢献したいと考えようになりました。こうして、2022年度より病院勤務を離れて医療機器開発を行う会社にてインターンを開始しました。

ここでは、医療機器開発の面白さを知ると同時に、日本のヘルスケア業界の課題を知ることができました。日本は医療機器分野では兆単位の貿易赤字で、その素晴らしい技術力にもかかわらず、ヘルスケア業界で発揮しきれていないといえます。一方アメリカは、医療イノベーションのための土台があり、非常に多くの素晴らしい医療機器が次々と誕生しています。そうしたイノベーションを起こす術を本場で学びたいという思いから、米国の経営大学院へ進学を決意しました。

医療機器分野では、技術開発や臨床試験、品質管理や知的財産権の管理など、1つの商品を販売するまでに多くのプロセスがあり、莫大な費用と時間を要します。私が学ぶ予定のコースには、ヘルスケア業界に特化した授業が数多くあります。例えば、医療業界全体の利害関係・力学を学び、どのようにアイデアを事業化するかを学ぶものや、他大学・他学部の学生と協力し、医療サービスの開発・商品化まで実際に行うプロジェクトなども受講予定です。また、各業界の未来のリーダーと共にプロジェクトを行う中で得られる人脈も、今後のかけがえのない資産になると考えています。こうした経験を通じて、日本では学ぶことのできない世界スタンダードの医療機器・医療サービス開発のノウハウ、リーダーシップを身につけたいと考えています。

もちろん、文化や法制度の違いから、将来必ずしも学んだことが適用できない部分も多くあると思います。しかし、学びの環境が与えられ、1歩を踏み出す私の試みに応援を頂けたことを心から感謝して、学べる全てを吸収し邁進していきたいと考えております。今後とも、皆様のご指導ご鞭撻を賜れますと幸いです。何卒、宜しくお願い申し上げます。

2022-23年度米山奨学生

「日韓両国の薬剤師に」

朴 用錫

北海道医療大学・札幌南RC

2018年に韓国から来た北海道医療大学薬学部のパク・ヨンソクです。趣味は旅行と読書、音楽鑑賞で、東野圭吾の小説とai myon、vaundyの歌が好きです。中学校の時にじめられたことがあります。友達がいなかった私には日本の歌は唯一の友達で、歌詞に励まされ乗り越えることができました。その時から私の心は日本に向かうようになりました。学生の頃からボランティア活動をしていて、小さな存在の私ですが、世の中を助けたいと思うようになり、病気の人を助けたいという気持ちで薬剤師という夢を持つようになりました。日本にとって韓国は近くて遠い国だと思います。似ている点がたくさん多くお互いに誤解している点も多いので、日本で生活しながらお互いの文化を共有しながら文化の力でお互いが真の隣国になることを願って努力しています。



留学する前、半年しか日本語を習わないまま日本に来ることになりました。最初は授業を受けるのも大変だし、友達を作るのも難しいと感じて、テレビとドラマ、歌で日本語を習いました。友達とは運動するか、休みの時に北海道旅行を楽しみます。日常生活は韓国での生活とかなり似ていて不便はありませんでした。特に、和食が大好きになって、韓国に行っても友達と日本料理店で約束を取ります。学校の試験が多くて友達と一緒に勉強する時間が多く、良い友達のおかげで未だに色々助けてもらいながら順調な学校生活を過ごしています。

薬学部に入學する前は単純に薬の特徴や化学構造などを学ぶ学部だと思っていましたが、今まで勉強と実習を通じて考えが大きく変わりました。結局何よりも重要なのは人でした。薬が人にどのような作用をして、どのようにして安全に人に良い作用を伝えることができるのか勉強することが一番重要な学部だと思います。薬ごとにその働き、つまり人にどのように役に立つのか添付文書などに記録されています。抗ヒスタミン薬という薬の中に消化障害を助ける薬があって、一般的な用途ではなく皮膚アレルギーに処方されることを病院実習中に知りました。消化器にある薬の作用点、皮膚にも分布しているのが知られて、消化障害と皮膚のアレルギー両方に機能できることを論文にまとめています。さまざまな原因で起こる皮膚アレルギーの治療に、消化器障害を起こす薬を使用することが特に有用であると思います。

今後、日本薬剤師免許取得後、韓国薬剤師免許にも挑戦し、両国の免許を持つことが目標です。日韓の薬の取引や特許などで活躍する人になりたいです。効く薬が無くて苦しむ患者や、高い薬に負担を感じている患者を助ける人になりたいです。



2022-23年度米山奨学生

「環境研究者を目指して」

田影（デンエイ）

酪農学園大学・岩見沢RC

米山奨学生として岩見沢ロータリークラブにお世話になっております、田影（デンエイ）と申します。私は酪農学園大学の環境リモートセンシング専攻の博士課程2年生です。出身は中国の少数民族の内モンゴルです。2016年4月から日本に来て、酪農学園大学の研究生として勉強が始まりました。今はモンゴルの地表面の季節変動と砂漠化について研究しています。中国の大学の4年間で環境科学を勉強して、卒業してから日本文化の体験と自分の専攻分野を深く理解するために日本に留学しています。日本に来たばかりの時は、アルバイトをしながら日本語を勉強しました。アルバイト期間でたくさん日本人とコミュニケーションを取る機会があって、交流能力もどんどん上がって、ゼミ研究室でも仲がいい友達ができました。学習の面では最先端の科学技術など、今まで知らなかった新しい知識を得ることで視野を広げることができました。すごく充実した留学生生活を過ごせています。

昨年の4月から米山奨学生になって、この一年間の奨学生生活を通して、大学と異なる社会経験豊富な皆さんと交流を図ることによって生活の意味を改めて理解し、視野を広げることができて、皆さんから社会奉仕精神を学びました。将来は社会の役に立つ人になって、皆さんの社会奉仕精神を伝承していきたいと思います。また、米山奨学生の使命と役割を改めて理解し、将来の努力する方向性も明確になりました。これは今までの最も成長した点だと思います。これから母国と日本の架け橋になるだけでなく、将来的に社会に貢献し、世界平和のために寄与できる人間になることが期待されていることがわかりました。また、優しいロータリアンとかわいい奨学生たちに出会い、たくさん話ができて、仲良くなるのができて非常にうれしいです。米山奨学生になってとても幸運だと思っています。この縁が繋がりになって奨学生終了後もずっと続けていきたいです。

最後に、日本での学業修了後は日本の企業に就職するつもりです。優秀な環境研究者になりたいです。将来、自分の力で日本と中国の国際関係に貢献して、文化と世界的な環境発展に頑張りたいと思っています。米山記念奨学金のおかげで、学校の研究と生活を両立することができ、心から感謝を申し上げます。

下記は岩見沢ロータリークラブの例会に参加した時の写真です。とても楽しかったです。



2023年メルボルン国際大会のご案内（第一報）



地区RI国際大会推進委員会

委員長

福井 敬悟

(札幌手稲RC・PG)

2023年国際大会は、5月27日（土）～31日（水）にかけて、オーストラリア・メルボルンにて開催されます。メルボルンはオーストラリア南東部の海岸沿いにあるビクトリア州の州都で、「エコノミスト」誌の「世界で最も暮らしやすい都市」で1位を獲得しています。

第一報として、メルボルン・シドニー7日間のコースをご用意致しましたのでご案内いたします。歴史的な建物や文化が残る自然豊かな落ち着いた都市・メルボルンと、近代的な大都市・シドニーを楽しめるコースとなっています。是非、ご家族お誘いあわせのうえご参加いただき、コロナ禍で旅行が制限され会えなかった友と、そしてまだ会ったことのない世界のロータリアンと、ロータリーの絆を深めましょう。多くの皆様のご参加をお待ちいたしております。

- ◎ 設定人数 : 20名様
- ◎ 申込締切 : 2023年1月31日（火）
- ◎ 旅行費用 : お一人様 400,000円

【 利用予定航空会社 】

国際線及びオーストラリア国内 : カンタス航空 日本国内線 : 日本航空

【 利用予定ホテル 】

メルボルン : モーベンピック ホテル メルボルン オン スペンサー（予定）
メルボルン駅 正面で国際大会会場まで徒歩15分の位置にあるデラックスホテル
シドニー : ソフィテル シドニー ウェントワース（予定）
シドニーの中心街にあり象徴的な建造物として知られているデラックスホテル

< 旅行費用に含まれるもの >

- ・航空料金 カンタス航空、日本航空のエコノミークラス ※ 2022年9月現在、燃油費用が含まれています。
- ・宿泊料金 メルボルン 3泊 シドニー 1泊 朝食付き ※ 2名1室利用
- ・日程表の送迎費用 空港とホテルの送迎及び、団体行動中は係員がご案内いたします。

< 旅行費用に含まれないもの >

- ・空港利用料、その他諸税 約20,000円（2022年9月現在のものの変動があります）
- ・任意 / 国際大会登録料（各自）、北海道ナイト参加費（各自）、
オーストラリアETAS電子入国査証（入国必要条件）OP（オプションツアー：食事、観光）、
海外旅行保険、一人部屋希望者追加費用 100,000円

【 ご案内事項 】

- ・参加人数を20名様で旅行費用を算出させて頂きましたが、人数に満たない場合は変更になる場合がございます。また、お一人部屋、ベッドタイプのご希望は施設の事情によりご希望に添えない場合もございますので予めご了承ください。
- ・なお、御取消料は国際大会による現地施設の都合により、お申込み後からは旅行費用の10%がかかります。その後、御取消料はお取消し日により取消料率が変わります。（国際大会期間の為、規定が厳しいことをご理解願います）

【 お申込み・お問合せ 】 : (株)産経海外旅行 札幌市中央区北1条西7丁目 タキモトビル4階
電話 : 011-271-5388 F A X 011-271-5621 担当 : 斉藤・矢田目

メルボルン国際大会 メルボルン・シドニー

旅行期間：2023年5月25日（木）～5月31日（水） 7日間

設定人数：20名様

	日付		発着地	時間	交通機関	旅行行程	朝食	昼食	夕食
1	5月25日	木	新千歳空港 発 羽田空港 着 羽田空港 発	17:00 18:40 21:30	JL518 QF80	日本航空にて羽田空港へ カンタス航空にてメルボルンへ 機内泊	-	-	機内
2	5月26日	金	メルボルン 着	09:00	送迎車	入国手続き後、送迎車でホテルへ ・メルボルン市内観光（OP） メルボルン泊	機内	-	-
3	5月27日	土				終日：自由行動 ・メルボルン国際会議場 ・国際大会受付 ・友愛の家 グランドオープン メルボルン泊	○	-	-
4	5月28日	日				終日：自由行動 ・開会 本会議 ・2510地区 北海道ナイト ※ ザ・ホテルウインザー メルボルン泊	○	-	-
5	5月29日	月	メルボルン 発 シドニー 着	13:00 14:25	送迎車 QF444 送迎車	ホテルより空港へ カンタス航空にてシドニーへ 到着後、空港よりホテルへ シドニー泊	○	-	-
6	5月30日	火	シドニー 発	20:55	送迎車 QF25	終日：自由行動 ・シドニー市内観光（OP） ホテルより空港へ カンタス航空にて羽田空港へ 機内泊	○	-	機内
7	5月31日	水	羽田空港 着 羽田空港 発 新千歳空港 着	06:00 09:00 10:35	JL507	日本航空にて千歳空港へ	機内	-	-

※ 2022年9月現在のスケジュールに基づき作成しております。大会事務局、航空会社、利用施設の都合により変更になる場合もありますので予めご了承ください。

2023年ロータリー国際大会 in メルボルン

『第2510地区 北海道ナイト』のご案内

RI 国際大会推進委員会
委員長 福井 敬悟

親愛なるロータリアンの皆様

2023年ロータリー国際大会 in メルボルン・オーストラリアへご参加される会員とご家族と共に、親睦と友愛をテーマのもと、下記の通り「北海道ナイト」を開催いたしますのでご案内申し上げます。

今年度の北海道ナイトは、メルボルンで一番古いヴィクトリア様式の「ザ ホテル ウィンザー」で開催いたします。1883年創業とパリのリッツやロンドンのサボイより古く、建物や内装にも歴史が感じられ、今もオーストラリア最古の5つ星ホテルとして名声と格式を保つホテルです。落ち着いた雰囲気の中で、オーストラリアの豊富な食材を活かした独自の食文化をご堪能いただきながら、会員とご家族の皆様と懇親を深めることができれば幸いです。

異国の地で、皆様と楽しいひとときを過ごしたいと思っておりますので、たくさんのご参加をお待ち申し上げます。

記

日 時 : 2023年5月28日(日曜日) 18:00~21:00
ホテル名 : THE HOTEL WINDSOR MELBOURNE (ザ ホテル ウィンザー メルボルン)
宴会場名 : The Canberra Room (ホテル 1F)
住 所 : 111 Spring Street, Melbourne, VIC, 3000, Australia (<https://www.thehotelwindsor.com.au/>)
電 話 : +61 3 9633 6000
参加費 : おひとり様 20,000 円

(料理: 着席ビュッフェ形式、飲物: ビール・ワイン・ソフトドリンク付)



『北海道ナイト』参加申込書

【参加申込期限】 2023年4月22日(土)

氏名	ふりがな	所属クラブ

参加者合計 名 × 20,000 円 = 円

【お申込先】 Mail : info@sapporo-teine.ri2510.gr.jp
 Fax : 011-222-2744

お手数をおかけいたしますが、参加費をクラブ毎にまとめて、下記の口座へ5月10日(水)までにクラブ名でお振込みくださいますようお願い申し上げます。

【お振込み先】 銀行名 : 北洋銀行 本店
 口座番号 : 普通口座 1235237
 名義 : 札幌手稲ロータリークラブ

【お問い合わせ】 札幌手稲ロータリークラブ 平川香織 090-3117-5122
 高張秀人 090-3393-3493

RYLAセミナーのご案内

国際ロータリー 第2510地区

2022-23年度

第20回

RYLAセミナー

定員
40名
対象20~30歳

申込〆切 4/22(土)

国際ロータリー第2510地区によって実施される、
若者のためのリーダーシッププログラムです。

セミナー実施日

2023.5.12(金) ▶ 5.14(日)

主なセミナー内容

講話、グループディスカッション、野外レクリエーションなどを通して、
青少年のリーダーシップを養成。

スケジュール

1日目

13:00 開校式
14:00 オリエンテーション
15:00 講義
17:00 夕食
18:00 入浴休憩
19:00 講義
20:00 パスセッション・アイスブレイク



2日目

7:00 ラジオ体操
8:00 朝食
9:00 講義
11:00 昼食
13:00 思索の時間
14:00 レクリエーション
17:00 夕食・フォーラムテーマ発表
18:00 入浴休憩
19:00 カウンシルファイア
20:00 フォーラム発表準備

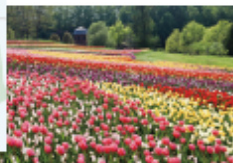
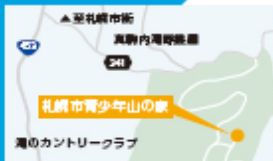
3日目

7:00 ラジオ体操
8:00 フォーラム準備
9:00 フォーラムテーマ発表・講評
11:00 講義
12:00 閉会式・写真撮影



場所

札幌市南区滝野247
札幌市青少年山の家
(滝野すずらん丘陵公園内)



Rotary
Rotary International
District 2510

【主催】国際ロータリー第2510地区RYLA委員会
【協力】札幌市青少年山の家
【お問い合わせ】第2510地区ガバナー事務所
〒060-0042 北海道札幌市中央区大通西11丁目4 大通藤井ビル7階
TEL:011-207-2510 FAX:011-207-2512



国際ロータリー第2510地区 2022-23年度
第20回青少年指導者養成プログラム(RYLA)
RYLA参加申込書 [登録料:5,000円/人]

フリガナ				(西暦) 年 月 日生:	歳
氏名			男・女	問合せ先	ロータリークラブ
住所	〒 (書類送付先に○: 自宅・勤務先・その他) (郵便物が到着する住所を記入)				
緊急連絡先TEL		続柄		携帯電話	
メールアドレス① ②Zoom対応アドレス					
勤務先 or 学校名					
RYLA参加経験	あり(第 回、年)・なし				
所属団体	一般団体名				
	ローターアクト		ローターアクトクラブ	年加入	
	インターアクト経験		インターアクトクラブ	年加入	
※食物アレルギーのある方は、詳細にご記入ください。					
※選考の際の参考といたしますので、応募動機をご記入願います。					

※ご記入いただいた情報はRYLA関連の連絡等のみに使用し、その他の目的に使用されることはありません。

※推薦ロータリークラブは、会長の承認署名後、第2510地区ガバナー事務所へFAXにて、お申込み下さい。

FAX送信先 011-207-2512 [申込メ切:4月22日]

※後日、参加受付書・参加ご案内書類等を参加者ご本人に郵送いたします。

上記の者を、国際ロータリー第2510地区第20回RYLA受講生に推薦いたします。

年 月 日

クラブ名

ロータリークラブ

会長名(署名)

携帯電話番号

RYLA委員会記入欄

RC記入

受付 年 月 日

受付番号

受講料

ガバナー四方山話

第10回 欧州というところ

オランダでの勤務先が、欧州本部ということもあって、3年という期間でしたが欧州の中をいろいろ回ることが出来ました。主要都市にある事務所に日本からの会計士を送り込み現地で日系企業へのサービスを行うという手配師のようなこともやりながら日本人の居ないところには、自分で赴き関与先の対応をしたりしていました。

また、たまの休みには、仕事では行くことの無い処を選んで遊びに行きました。1度だけドーバー海峡をフェリーで渡り、ロンドンからまっすぐ南に行ったところのブライトンという海辺の街に行った時、民宿に泊まったのですが、そこで出てきたフィッシュ&チップスがとても美味しく、ロンドンのカフェなどで食べるものとは別物の美味しさに感激したことがあります。イギリス人でもちゃんと美味しい物を食べているんだ、とひどく感心したものでした。

オランダには2月にクロッカス・ホリデーという1週間だけのお休みがあり、その時に車で10時間も走って、オーストリアのチロル地方にスキーに行ったことがあります。現地で可愛いチロル風の宿屋に泊まったのですが、パンもお料理も美味しくてこれがこのチロルの家庭の味かと納得しました。しかし、宿のサウナに行くと男女関係なく皆さん等しく全裸でくつろいでいて文化の違いを肌で感じた次第です。

オランダではあり得ない風景でしたが、ドイツの都会に行くと、夏は街の真ん中にある公園の芝生の上に、キラキラのシートを敷いて、その上に何も身につけていない女性が日光浴をしているのを何度か目にして、ゲルマン民族の習慣というものを知ることができました。

地中海にイビサ島というスペイン領の島があるのですが、この島は他国からの観光客で成り立っているところです。しかし島のそれぞれの浜辺ごとに風景が違います。イタリア人が多い浜辺は普通の風景なのですが、イギリス人の多いところはトップレスの方が多勢で、ドイツ人が多いところはご想像の通りです。

スイスのツェルマットはマッターホルンの麓の街で、そこから登山鉄道やロープウェイを使って標高3,800mに上がるとイタリアとの国境になります。そのイタリア側もスキー場で降りるとチェルビニアという小さな町があります。一度だけこのチェルビニアに泊まってスキーを楽しんだことがあるのですが、そこでの食べ物やツェルマットではあり得ない、イタリア料理でとても美味しくかつ安価で、国境一つでこんなに違うものかと感心させられたものです。

チェルビニアは4本のゴンドラとリフトを乗り継いで頂上から一気に滑り出して10分近くも停まらずに滑ることの出来る雄大なスキー場でしたが、グレンデの脇にある別荘のベランダで、ビキニ姿の女性が日光浴をしている横をスキーウェアに身を固めゴーグル姿の自分が疾風のごとく滑って居るという空間が信じられない一瞬でした。

イタリアと言えば、ピザが忘れられません。ピザの生地が美味しいのです。トッピングもそれなりに美味しいのですが、生地の美味しさは語り様がありません。ワインとピザだけで十分に食事を堪能できたことは、嬉しい思い出です。

ガバナー補佐ロータリーを語る

「それでいいのだ」

国際ロータリー第2510地区 第10グループガバナー補佐

玉井 清治 (函館亀田RC)



以前、羽田空港出発ゲートの付近で「We serve」と称して素晴らしいボランティア活動を行っている奉仕団体のPR動画を目にして、ため息をついたことがあります。確かに市町村の境に「ようこそ〇〇町へ」の看板や、カーブした道路にある反射板、空港の到着ロビーなどでは他奉仕団体の看板をよく目にします。これが広報活動なのでしょう。それに比べロータリーは……。広報を積極的に活動していないように感じます。

RIもポリオ撲滅の一手前まで来ていますが、たいへん大きな素晴らしい奉仕活動なのに日本のメディアが全然取り上げません。これはいったい何故なのか。ロータリーはこれまで広報活動を軽く見てきたのではないかと時折思い、クラブもそれにもっと力を入れると会員増強に繋がるのではないかと感じる瞬間があります。

古い日本ロータリーの資料を読んでいたならば、昭和13年比叡山で開催された第8回地区協議会の講演資料の中で、米山梅吉翁は「ロータリー 唯一の秘密」と題して次のように発表しておりました。

「もし、ロータリーに秘密があるとすれば、ロータリーは声を大にして自分のする事を世間にそんなに発表しない。即ち、右の手でする事を左の手に知らす必要はない、吾々は孝行して吹聴することは要らない、何となればそれは奉仕のためです。」

米山梅吉翁は生涯ほとんど自分の全財産を恵まれない人々のために投出し、しかもそれが自分からの施しであるということを知らせないようにして死ぬまで奉仕を続けられました。そのお陰で、たくさんの学生が大学に進学できたり、貧しい生活から救われたのです。

私たちロータリーはどちらかというと「陰徳」なのです。徳を決して表に出さないで一生懸命「善行」をやっていて自慢しないというのがロータリアンの控えめな素晴らしい姿だったのでしょう。しかし、時代の変化を理由にロータリーはこの陰徳を陽徳に変えようとする動きがあります。朗らかに「私たちはこのようなことをやっていますよ。」自慢じゃなくて「こういう効果がありました。」「こういう効果があります。」と発信すれば地域社会も理解し協力してくれる。上手なやり方で「陽徳」に変えていこう。つまり、公共イメージ向上も、いかにロータリー運動を地域社会に理解していただき、協力を得て会員増強に繋げていきたいという考えです。陰徳は素晴らしいことですが時代遅れなのでしょう。陰徳それだけでは会員は増えないような気がします。「ロータリーは穴の空いたバケツだ」とよく言われます。「入れても、どんどん会員は減ってしまう」という現実です。特に若い人達は結果が出ないと陰徳を伝えてもついでこないような気がします。

我々はそもそも世の中の人に認めてもらうためにロータリークラブに入会したわけではありません。「誰もがこの世の中を変えようとしてロータリークラブに入ったのではない。大部分の人間は、仲間が広がる機会を求めて入会したのです。」とエドワード・カドマンRI元会長(1985-86)が言うように、フェローシップを求めて入った会員は例会を通じて徐々に心を磨き、奉仕の感動を得ながら、少しずつ真のロータリアンになっていく。そして、この心を磨くことは、職業奉仕、すなわち徳のある経営につながっていくのではないのでしょうか。

どんな良いことでも、これ見よがしに鉦や太鼓を叩いて大騒ぎしているうちは「偽善」でしかないということだと思えます。人に見えないところで実践してこそ「光る」のです。そして、ロータリアンであることに誇りを感じます。

天才バカボンのパパが言うように「それでいいのだ。」

月信委員会からのお知らせ

従来ガバナー月信に掲載されておりました以下の記事は、今年度は地区ホームページに掲載をしております。地区ホームページ (<http://rid2510.org>) をご参照ください。

【ホームページ掲載記事】

- ・ガバナー補佐名簿
- ・ガバナー公式訪問日程
- ・地区カレンダー
- ・ガバナー事務所スタッフ・担当
- ・地区予算
- ・地区クラブ会長・幹事名簿
- ・地区組織図
- ・ハイライトよねやま
- ・コーディネーターNEWS
- ・ロータリー定期報告関係 等



RI 2510地区ホームページ
QRコード

表紙の解説（第4グループ）

歴史と伝統を誇る【小樽カントリー倶楽部新コース】

歴史と伝統を誇る小樽カントリー倶楽部新コース。札幌ゴルフ倶楽部輪厚コースと共に道内ゴルフ場の双壁である。近年はニトリレディースゴルフトーナメントの開催で有名だが、その前には男子ツアーのサン・クロレクラッシュも長く開催されていた。しかし、その伝統を飾るのはやはり1990年と1999年に開催された日本オープンゴルフ選手権であろう。90年の優勝者は中嶋常幸、99年は尾崎直道。99年の大会は強風と寒さで稀にみる過酷なコンディションとなり、優勝スコアが10オーバーであった。

表紙の写真は2017年4月29日撮影。私は毎シーズン、この日に小樽CCから始めることを20年以上ルーティンとしている。手稲山の残雪から吹き降りる風は未だ冷たいが、待ちわびた青々とした芝が目優しく眩しい。当たり前だが、ゴルフ場は自然豊かで季節ごとに違う美しさを見せてくれる。夏もいい。秋もいい。



夏の景色



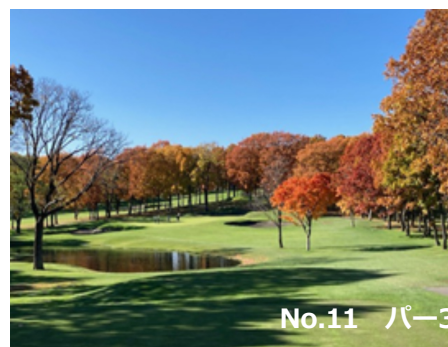
秋の景色

さて、最後に自分が理事を務めているもう一つの雄、札幌ゴルフ倶楽部輪厚コースのPRもしたい。ここ2年程かけてコースを改造した。大変評判がよく、輪厚コースの魅力が更に高まった。両コースともなかなか予約を取れないのが玉に瑕である。

第4グループ ガバナー補佐 古野 重幸



輪厚コース No.5 パー5



No.11 パー3



表紙

Rotary  **District2510**